災害訓練に参加して

本格的な冬の寒さが訪れた 12 月 2 日（土)、心地よい冬晴れの中災害訓練が開催されました。新型コロナウイルス感染が蔓延したここ数年間は小規模の訓練でしたが、今年度は 4 年ぶりに大規模な訓練が開催されました。当校の看護学生も傷病者役で参加し、実際に消防署職員からのトリアージを受け、トリアージカラーに応じた処置を受けました。また自身の処置が終了した後は、実際に医師や看護師・コメディカルがどのように医療処置を実施しているのかを見学しました。災害看護は、災害によって命を脅かされている人々を 1 人でも多く救うための看護です。 また被災により身体や心にショックを受けた方たちのケアを行い、日常生活を取り戻せるようにサポートも必要となります。 さらに、医療・看護はもちろん災害に関する知識を深め、災害医療・看護にあたる職員と連携していくことが必要になります。実際の物々しい医療現場に圧倒されることもありましたが、災害時こそ職員間の情報伝達を密に行い、迅速な判断能力と行動力が必要であることを感じていました。今回参加した学生のほとんどは、2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災を経験しています。大半の学生が当時は小学生でしたが、本日改めて災害訓練を体験することで、災害時医療・看護に対するイメージを深め、その重要性を感じることができたのではないでしょうか。

災害訓練に参加した学生は、現在 3 年生です。先日すべての臨地実習が終了し、現在は看護師国家試験合格に向けて学習に取り組んでいます。これらの学生の中には、災害拠点病院に就職する学生や災害支援看護師を目指している学生もいます。災害はいつ何時訪れるか分かりません。今回の災害訓練を通して、いつか災害現場で活躍する看護師が現れることを願います。